

[成果情報名]イチゴ「ゆめのか」暗黒低温処理苗の定植遅延時における花芽分化確認後5日間の保存場所

[要約]「ゆめのか」の暗黒低温処理において、頂果房花芽分化後の5日間は冷蔵庫、冷暗所、苗床の何れに置いても、出蕾日、収穫開始日、年内収量、先青果の発生に及ぼす影響は少ない。ランニングコストと作業性から冷暗所における保存が妥当である。

[キーワード]イチゴ、ゆめのか、暗黒低温処理、定植遅延

[担当]長崎県農林技術開発センター・農産園芸研究部門・野菜研究室

[連絡先](代表) 0957-26-3330

[区分]野菜

[分類]指導

[作成年度]2013年度

[背景・ねらい]

本県の主要園芸品目であるイチゴは、現在その8割近くを「さちのか」が占めている。「さちのか」は果実品質に優れる反面、晩生で年内収量が少なく、果実が小玉傾向で収量向上が難しいため、生産が伸び悩み、農家所得は減少傾向である。

その中で本県では新たなイチゴ品種の導入が求められており、愛知県育成の「ゆめのか」は高い収量性に加え、輸送性に優れているため、次期の有望品種であると考えられ、今後、現地へ普及を図るには本県の環境条件に応じた栽培技術の確立が必要となる。

「ゆめのか」は収量性に優れるが、普通ポット栽培では頂花房の花芽分化が「さちのか」より遅い傾向があり、年内収量を安定的に確保するためには早進化技術を活用する必要がある、これまで8月下旬入庫の暗黒低温処理の効果について明らかにした。

現地段階ではこれまで、花芽分化が確認されながら定植前の長雨等により数日間定植できない場合も少なくない。

そこで「ゆめのか」の暗黒低温処理において花芽分化確認後5日間の定植遅延時の苗保存状態の違いが収量等に及ぼす影響について明らかにする。

[成果の内容・特徴]

1. 「ゆめのか」の暗黒低温処理において、頂果房花芽分化後の5日間は冷蔵庫、冷暗所、苗床の何れに置いても、収穫開始日は同等である(表1)。
2. 年内収量は苗床戻し区で劣る傾向があるが、先青果の発生は同等であり、5日間では花芽分化後の保存場所による収量、品質への影響は少ない(表1)。

[成果の活用面・留意点]

1. 花芽分化後の適期定植(参考)は収穫開始が早く、年内収量も高いため、適期定植が望ましいが、気象災害等で定植できない場合も想定されるため、定植遅延時の対処法として活用できる。
2. 冷蔵庫及び冷暗所に保存する場合、鉢土の乾燥には十分留意し、必要に応じ灌水する。
3. 定植遅延時の対処法としては苗への液肥施肥等も考えられるため、今後の課題とする。

[具体的データ]

1. 供試品種 「ゆめのか」
2. 栽培方法 長崎県型高設栽培 株間20cm、2条(700株/a)
3. 育苗方法 雨除け高設育苗 10.5cmポリポット イチゴベンチポット培土使用
苗切り離し 2012年6月4日 育苗時施肥量 N-200mg/株
4. 暗黒低温処理 2012年8月25日入庫 設定温度:15℃
5. 花芽分化肥厚後期到達日:2012年9月7日
6. 試験区の構成

区制	花芽分化確認後の苗保存場所	冷蔵庫入庫期間	保存方法	定植日
冷蔵庫区	15℃設定の冷蔵庫内	8/25~9/13	コンテナ(18株/個)	9/13
冷暗所区	直射日光が当たらない施設内	8/25~9/8	コンテナ(18株/個)	9/13
苗床戻し区	高設育苗床	8/25~9/8	高設床(株間15cm間隔)	9/13
(参考)適期定植区	9/8に出庫、2日間冷暗所で慣らし後定植	8/25~9/8	コンテナ(18株/個)	9/10

注) 1区10株2反復

苗床戻し区は高設育苗床に戻してから通常の育苗と同様に毎日灌水を行い、冷蔵庫区と冷暗所区は無灌水

適期定植区は試験ハウスの向きが異なり、必ずしも同一条件ではないため(参考)としている

冷蔵庫区は慣らしをせずに出庫当日に定植

表1 出蕾及び収穫開始日、年内収量、先青果の発生に与える影響

区制	出蕾日	収穫開始日	年内収量	先青果率
			kg/a	果数%
冷蔵庫区	10/11±1 a	11/26±2 a	129	0.8
冷暗所区	10/13±1 b	11/28±2 a	127	1.0
苗床戻し区	10/13±1 ab	11/26±2 a	112	1.0
(参考)適期定植区	10/10±1	11/22±1	150	2.1

注) Tukey法により同列の異なる文字間に1%水準で有意差があり、±は95%信頼区間の幅(n=20)

[その他]

研究課題名:ながさきオリジナル品種育成促進事業

予算区分:県単

研究期間:2012~2014年度

研究担当者:前田 衡